

ソ連におけるハクチョウ類の分布と最近の状況

藤 巻 裕 蔵

Distribution and recent information of swans in the USSR.

Yuzo Fujimaki

1. ハクチョウ類の分布

ソ連の鳥類目録の比較的新しいものとして Stepanyan (1975) と Ivanov (1976) による目録がある。まずこれらにもとづいてハクチョウ類の分布について紹介する。なおこの2者ともコハクチョウとアメリカコハクチョウを別種としている。

コブハクチョウ：スカンジナビア南部、ヨーロッパ中部から東はウスリー川沿いまで分布する。北限はスカンジナビアでは 61°N まで、サアレアマ島（エストニア共和国）、ドニエストル川下流域、クバン、ボルジ川・ウラル川間のカムィシ・サマル湖まで、西シベリアでは $54\sim 56^{\circ}\text{N}$ までと東はオビ川流域までである。南限は小アジア、イラン中部、アフガニスタンまで、北東限は多分パミール・アルタイ高地の西部山麓、天山山脈の西、北部山麓までである。オビ川流域からバイカル湖までの間では繁殖しない。ザバイカル地方の東部では、東はウスリー川流域まで、南は所によりチベット北部までである。上述の地域での繁殖地の分布は複雑で、変りやすく、人間の影響を強く受けている (Stepanyan 1975)。

ヨシの繁げる大きな湖に生息する。分布は点的で、エストニア、リトビアの湖、ドゥナイ川、トニエストル川下流域、ボルガ川デルタ、プレドカフカス地方、シベリア南西部、カザフスタン（ツルガヤ川とイルギザ川下流域、サルィス川下流域、スィルダリ川流域の湖沼、イリ川デルタなど）、ザバイカル地方の湖である。かつてハンカ湖では営巢していたが、現在はいない。ソ連以外では、スカンジナビア半島南部とその周辺、ポーランド、ブルガリア、トルコ、イラン、アジア中部に分布する。冬には黒海、カスピ海、地中海、イラン南部、中央アジアに分布する (Ivanov 1976)。

オオハクチョウ：ユーラシアのスカンジナビアから東はアナジール川沿い、カチチャツカ、オホーツク海沿岸まで分布する。北限はフィンランドでは 67°N まで、コラ半島北部、ベチョラ川下流域まで、ウラルでは 64°N 、オビ川沿いでは 66°N 、タザ川沿いでは 67°N 、エニセイ川沿いでは 68°N 、東部では $67\sim 68^{\circ}\text{N}$ 、コリマ川沿いでは 69°N までである。南限はフィンランドでは 64°N 、ソ連ヨーロッパ地方西部では 62°N 、ボルガ上流域、カスピ海北岸まで、カザフスタン北部では 50°N 、バルハン、アラコリ、ザイサン、ジュンガル、モンゴル中部と北部、中国北東地方北部、沿海地方南部のハンカ湖までである。アイスランド、サハリンに分布する。繁殖地は非常に分散しており、分布南限に近い所では毎年繁殖しているわけではない (Stepanyan 1975)。

大きな湖に生息する。コラ半島、カレリアから東はアナジール下流域、カムチャッカ、サハリンまで分布する。北部では所により森林ツンドラやツンドラにも生息（カニン半島では 68°N 、タゾフスク半島では $68^{\circ}40'\text{N}$ 、タイミル西部では 70°N 、コリマ川下流域では 69°N まで分布）。ウランゲル島でまれに見られることがある。多少とも連続した分布域の南限はラドガ湖からボルガ上流域を通り、それからウラル中部のスペルドロフスク、アンガラ川下流域、ビチム山地、アムール下流域を通る。南部では所々ドゥナイ川、ドニエストル川、カスピ海北岸、バルハシ湖、アラコリ湖、ツビンスク共和国の湖、多分ザバイカル地方の湖にも分布する。1962-63年にはハンカ湖で繁殖した。ソ連以外では、フィンランド、スカンジナビア半島、アイスランド、中央アジア、日本（北海道）である。越冬地は白海、バルト海、オホーツク海、黒海、カスピ海南部、中央アジア南部の湖で、ソ連以外では地中海、イラン、インド、中国南部である（Ivanov 1976）。

コハクチョウ：コラ半島のベチェンガ川沿いから東はコリマ川沿いまでのユーラシアのツンドラに分布する。北限は沿岸部までであるが、タイミールでは 74°N まで分布する。南限は森林ツンドラの北部までであるが、所によってはもっと南まで分布する。エニセイ川沿いでは 68°N 、タザ川沿いでは 66°N まで分布する。コルゲエフ島、バイガチ島、ノバヤ・ゼムリヤ南部にも分布（Stepanyan 1975）。

コラ半島東部（ベチェンガ川でまだ繁殖は確認されていない）からコリマ川流域、チャウン湾（チュコト半島で換羽期に出限）に到るツンドラの水域、一部は森林ツンドラにも生息し、さらにコルゲエフ島、バイガチ島、ノバヤ・ゼムリヤに分布する。タイミル半島のタイミル湖にはいない。ウランゲル島にはまれに飛来する。南は大体北極圏、タザ川・ツルハナ川間では 66°N まで分布するが、多くの地域では $69\sim 70^{\circ}\text{N}$ までである（ユゴル半島、タイミル、ヤナ川下流域）。越冬時にヨーロッパ北西沿岸、まれにカスピ海、中央アジア、東方のカムチャッカ、千島列島で見られる。ソ連以外では日本、中国、インドで見られる（Ivanov 1976）。

アメリカコハクチョウ：アラスカのパーロー岬から東はサウサンプトン島、ノッチンガム島、バフィン島、ビクトリア島、セントローレンス島まで分布する。南は西部では大体 $65\sim 66^{\circ}\text{N}$ 、東部ではマニトバまで、ソ連ではアナジール川沿い、サハリン、コマンドル諸島にまれに飛来した記録がある。チュコトでは繁殖が知られている（Stepanyan 1975）。

迷鳥で、北東部で何回か捕獲された。すなわちアナジール下流域（1897年6月9日、1902年6月1日、1907年5月1日）、ベーリング島（1882年11月3日）である。ソ連以外では北アメリカ北部のアラスカからバフィン島まで分布する。冬にはカリフォルニア、フロリダに到る南部の沿岸で越冬する（Ivanov 1976）。

ついで以下に最近出版されたソ連極東の鳥相について述べた本から、ハクチョウ類の部分をぬきだして紹介する。

カムチャッカの繁殖地におけるオオハクチョウの分布には不明のことが多い。生息数は徐々に減少している。クロノツ自然保護区とその付近南はジパノワ川までの範囲では、地元の猟師の話では、20年前は毎年少なくとも25-30つがい繁殖していた。1972-1976年には10-12つがいを教え、最近はこれより少なくなった。現在自然保護区内でオオハクチョウが繁殖しているのはウゾン火山カルデラ内のツェントラリノエ湖（毎年ではない）、チハヤ川下流域（大きな湖の一つ）、多分クロノツ湖である。夏に成鳥や飛べる幼鳥が見られるのはセミヤチスク潟、クロノツカヤ川やポリシャヤ・チャジマ

川下流域である。自然保護の南ではジバノワ川流域、特にチドロバヤ川やシェルコフカ川沿いで繁殖する。

この地域で越冬するオオハクチョウの数は少なくとも半分に減少した。1960/61年の調査ではクロノツ自然保護区南部では490羽が越冬していたが (Markov 1963)、現在は最もよい年 (1977/78) で250羽で、普通はもっと少ない、Gerashimov (1971) は1960~1968年にカムチャッカ半島全域で越冬するのは5000~5500羽と推定した。彼の資料では越冬地北限はカラガ川、イムラト川のカラギン地方である。

カムチャッカの海岸沿いが渡りルートになっている。半島南東部では春の渡りは3月末に始まり、セミヤチクスク瀉では7年間で3月21~30日 (平均25~26日) である、渡りに先立って越冬個体の動きが活発となり、短距離の移動をするようになる。渡りの最盛期 (セミヤチクスク瀉で集中している個体による) は年により多少異なる。1972年に渡りの最大数は4月9~16日に、1973年には4月1~17日に、1974年には4月8~16日と20日頃 (2回目のピーク) であった。1975、1976年にも2つのピークがあり、第1は3月下旬と4月上旬、第2は4月下旬である。Averin (1948) はオリガ湾で5月上旬に渡りのピークを観察した。

この地域で秋の渡りは9月27日~10月13日で、4年間の平均は10月7日である。渡りに先立って小規模の移動をする。秋の活発な渡りは普通10月下旬から11月末までである。1975年には大量の渡りがすでに10月中旬にみられた。

カムチャッカ南東部のセミヤチクスク瀉でみられた最大数は、春で273羽 (1971年)、秋に305羽 (1972年) であった。

主に夜に渡るようで、明るい時間では主に早朝と夕方に渡る。2~5羽 (ときには8~10羽) の群が多い。まれに20~30羽の群がある。〔以上、Lobkov (1981) による〕。

Przheval'skii (1870) はオオハクチョウがハンカ湖南東部で普通に繁殖すると考えていた。Shul'pin (1936) はここでは観察していない。1962~63年にオオハクチョウはこの湖で夏に少数見られただけである (Polivanova 1971) 私の調査期中 (1972~78) オオハクチョウは繁殖期にスモレンスク湖、ボゴドゥロフスク湖 (ハンカ湖の水位が高いときだけ)、グニル湖でいつも見られた。

1978年繁殖期前にハンカ湖では1つがいが見られただけである。シバエフ (私信) によると、これはベルフニ・スガチ川流域の湖の1つで繁殖した唯一のつがいである。飛行機による調査で彼は7月2日に巣にいる成鳥1羽とそのそばを泳いでいる1羽を観察し、7月22日には成鳥2羽と幼鳥3羽の家族を観察した。1980年夏にハンカ湖北東岸で3つがい (そのうち2つがいは繁殖) と単独個体を観察した。マスクラットの巣の上の巣は5月28日には出来上っており、4卵があった。この巣から3羽の幼鳥が巣立った。8月25、26日のシバエフと共同で行った飛行機調査では、このつがいの他にさらに3羽と6羽の幼鳥のいる2家族がいた〔以上 Glushchenko (1981) による〕。

(1960~1978年の観察では)、春に沿アムール下流域では約5,000羽のオオハクチョウが渡る。繁殖地に残るのは50~60つがい以下である。ボロニ湖地域で繁殖するのは5~6つがい、エボロン湖では2~5つがい、チュクチャギルスコエ湖では15つがい以下、ウドゥル湖では10つがい以下、アムグニ川地域、とくに左岸の湖では20つがい以下である。1969~1971年5月末に、エボロン狩猟局の猟師コルチンは4~5卵のある巣をいくつか発見した。彼は家族 (成鳥2羽と飛べない幼鳥3羽) を1969年8月

中頃に観察した。私はシンミ川地域で7月中旬に幼鳥2羽と3羽の2群を見た。

秋の渡りの時期にはオオハクチョウはコハクチョウとともにサハリン湾沿岸とアムール川河口に集まる。これらは3,000~5,000羽に達する。

コハクチョウの渡りは1977年以前には見られなかった。1977・1978年の春ボロニコ地域で渡りを観察した。記録されたのは全部で500羽以上で、7~15羽の群で渡った。アルビト湖には休息と採餌のため、一度に200羽くらい渡来する。ここにはオオハクチョウも渡来する。1978年秋にはコムツモリスクナアムールで傷ついた個体が住民により捕獲されたことが一度ある〔以上 Roclyakov (1981) による〕。

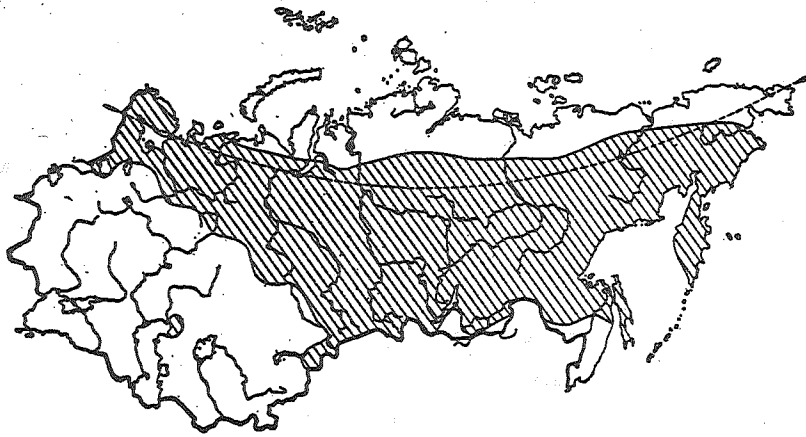
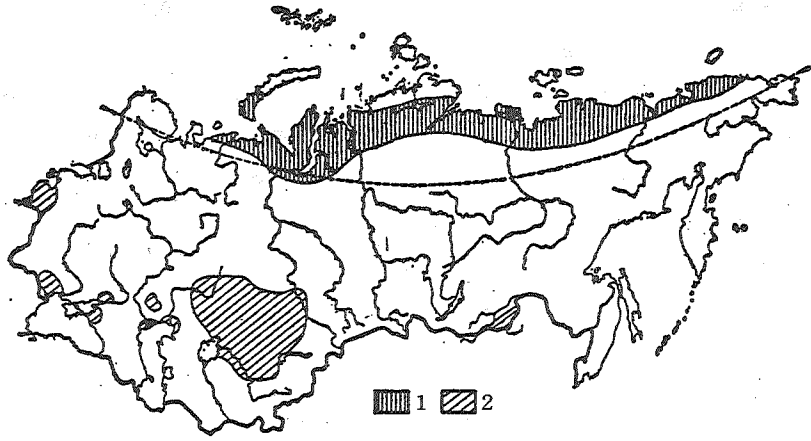
(1969~1978年のアムール州南部での調査で) オオハクチョウはトム川上流地域で見られた、すなわち1976年8月27日にアレウン川下流域で4羽からなる家族が、1978年8月28・29日に同じ場所で7羽が見られた〔以上 Pan'kin (1981) による〕。

(1970~1978年にアムール湾北部のデ・フリザ半島での調査で)、コハクチョウの渡りは少ない。デ・フリザ半島では渡る個体は春に少数、毎年ではないが観察される。早春にアムール湾がまだ結氷している時期に、氷のとけた湾北部で残って採餌する。

採餌しながら氷沿いに泳ぎ、時々脚で湖底をかきまわす。これらは人になれていて、20~30mまで近寄れる。このとき「コオ、コオ」となく、同じ声は群が飛びたつときにも聞ける。非常に警戒するときには、頭を上下させ、ちがった「クー」という声を出す。1970~1978年デ・フリザ半島で数えたところでは、1970年4月10~13日14羽、1972年3月26日5羽、1974年3月23日1羽、1976年4月3日3羽、1978年4月9~11日2羽であった。1971、1973、1977年には個体数が少ないため観察できなかったと思われる。〔以上 Omel'ko & Omel'ko (1981) による〕

文 献

- Stepanyan, L. S. 1975. ソ連の鳥類の種組成と分布、非スズメ目、ナウカ、モスクワ
- Ivanov, A. I. 1976. ソ連鳥類目録、ナウカ、レーニングラード
- Lobkov, E. G. 1981. カムチャッカ半島で繁殖する稀少鳥類、極東の稀少鳥類、7-12。
- Gludhvrnko, Yu. N. 1981 ハンカ低地帯で繁殖する鳥類、極東の稀少鳥類、25-33。
- Roslyakov, G. E. 1981 アムール川下流域の稀少鳥類、研究不十分な鳥類の資料、極東の稀少鳥類、112-115。
- Pan'kin, N. S. 1981. 沿アムール地方上流部の稀少鳥類、極東の稀少鳥類、116-117。
- Omel'ko, M. A. & M. M. Omel'ko 1981. 南沿海地方、とくにデフリス半島における稀少鳥類の観察、極東の稀少鳥類、117-120。
- Flint, V. E. R. L. Beme, Yu. V. Kostin & A. A. Kuznetsov 1968
ソ連の鳥類、ミスリ、モスクワ



ソ連におけるコハクチョウ(上1)、コブハクチョウ
 (上2)、オオハクチョウ(下)の分布
 (Flint ほか 1968)